

国文学研究資料館報

第43号

平成6年9月

里から寺へ

立川美彦

二年前の六月、朝比奈峠へ入る道の傍ら、太刀洗川の細流に臨む小家を借りて、それまで二十年住んだ材木座の海近くの、これも借家から、移り住んだ。ちょうど、鎌倉旧市内の東南端から東北端へ跳んだ恰好だった。風吹けば波音の聞こえ、潮の香の運ばれてくる閑静な浦町も、二十の春秋の過ぎる間に、夜中の一時二時まで浜で花火を打ち遊ぶような、喧騒の巷に変わっていた。白い家が建ちはじめた頃は、周囲に溶けこまず妙に目立ったのに、そんな建物が増えた近年は、木造の地色の古家のほうが、却って目立たしくなった。商店の人に訊ねると、お客は減っているという。住人が去って、保養所などが多くなり、地元で物

を買わなくなった。人の心の用い方が変わったのだろう。ここの十二所は、滑川の上流の谷あいにある。東方、金沢から峠を越えて鎌倉郷に入った最初の村落だ。この峠越えの道は旧東海道の一往還であり、太刀洗川に沿った部分を、土地の人は旧道と呼ぶ。この旧道の里に引き越して、先、高湿度の海岸とはかなり違う、さわやかな山の空気に気付いて嬉しくなった。次に嬉しかったのは、村の子らが挨拶をしてくれることだった。それも、こちらと擦れ違ふよっぽど以前に、判然とした声をかけて来る。その距離の測り方、声の出し方、眼の遣い方、顔の持ち方が、実に適当なのである。少年少女のこうした態度の背後に、

新奇なものに流されない親達の、確かな生活習慣・社会意識を想わずにいられなかった。引越しの前後、五六七八月は、あたかも、逆引き広辞苑の編集の真最中だった。家具の置き場の定まらず、運んだ荷を解く間もない新居にも、コンピュータの吐き出すリストのぎっさり詰まったポール箱が、宅急便やらバイク便やらで容赦なく送り付けられた。この時ばかりは、リストの山に猛然とむしゃぶりついたのだった。これを遣っつけて仕舞わないと、引越しの荷を解けないし、足を伸ばして寝ることも出来ぬ。二千五百枚がとこ入った骰子形の箱で、返しても、／＼新手を送り込まれた。延べ二十個ほどあったろうか。机を離れ、また就くたびに、紙の山々を踏み越え、／＼暑さの夏を汗かき通した。コンピュータの威力を知らされ、データを大量に形成することの難儀を体験した。三キロ

ほど瘦せて、立冬の過ぎたころ届けられた見本は、満足すべきものではなかったけれど、発案者の意図を理解し、それに沿って協力することの大切さを学んだ。専ら民間で職にたずさわり、辞職後、永年フリーの編集者として世すきをしていた私を、国文学研究資料館の皆さんは温かく迎えて下さった。はいりの桜を見越して、遠く仰いだ本館の中に身を置き、今度は窓の内側から桜を見下ろすと、先とはまた各別である。大勢の達者の人々が営々として築いて来られた資料やデータの蓄積は、他見には完成物として形の固まったものに見えた。これを内側から見直すと、なお、すべてが流れ動きつつあることに気付かざるを得ない。国文学にも情報処理学にも門外の私にそれでも出来るかも知れない事は、色んな意味での調整役であることに想い到了。

一 目

共同研究報告（追加）…………… 9
 新取資料紹介①…………… 10

次一

文献資料部専修報告…………… 2
 研究情報部専修報告…………… 4
 整理閲覧部専修報告…………… 7
 文庫紹介②…………… 8
 共同研究報告（追加）…………… 9
 新取資料紹介①…………… 10

特別新取和古書のお知らせ…………… 11
 利用者へのお知らせ…………… 12
 泉報…………… 13
 評議員・委員等名簿…………… 14
 人事異動…………… 17
 平成六年度秋季学会開催一覽…………… 18

文献資料部事業報告

松野陽一

平成六年度の調査収集事業は、五月十二日の収集計画委員会で決められた大綱を基に、五月二十六日の調査員会議（総会）で具体的打合せを行ない、既に作業はかなり進捗している。その総会では、諏訪春雄客員教授の講演「歌舞伎狂言の作者」があったほか、今年の新企画として「刊記をめぐる諸問題」のテーマでシンポジウム（パネリスト 市古夏生お茶の水女子大教授、石川了大妻女子短大教授、飯倉洋一山口大学助教授、司会鈴木淳助教授）を行なった。日ごろ調査カード作成に密接に関連する問題であり、数年来の案件であるカード様式の改訂にも関係するためか、活発な議論が展開されたが、終了後、特に版本研究者以外の方々に反響が大きかった点が印象的であった。

本年も調査箇所は抑えこんだものの百箇所を越えるし、収集の方も昨年並みで予算上はなかなか苦しいが、調査員の方々の旺盛な資料探査に支えられている事業である。応える努力をせねばならない。

平成五年度国文学文献資料調査・収集の概況

一、調査

平成五年度は、本年三月末までに一六個所の所蔵資料八九九六点を調査した。

北海道・東北地区（順不同、敬称略、一部省略。以下同じ）

北海学園大学附属図書館（北駕文庫）・函館市立図書館・伊達市開拓記念館・弘前市立図書館・岩手県立図書館（新渡戸文庫）・東北大学附属図書館（狩野文庫）・仙台市民図書館・仙台市博物館・仙岳院・酒田市立光丘文庫・初瀬川文庫

仙台市博物館伊達家本が新規。秋田県立図書館は都合で取りやめた。

関東地区

茨城県立歴史館・筑波大学附属図書館・流通経済大学附属図書館（祭魚洞文庫）・埼玉県立図書館・東京芸術大学附属図書館・同（臨本文庫）・宮内庁書陵部・明治大学附属図書館（毛利文庫黒川本）・三井文庫・東京大学文学部国文学研究室・東洋文庫・東京都立中央図書館（東京誌料）・尊経閣文庫・秋山虔・石井庄司・神奈川県立金沢文庫・横浜開港資料館

金沢文庫が新規。秋山本・石井本は夏期セミナー・万葉展示に出品されたもの。

中部地区

新潟大学附属図書館（佐野文庫）・糸魚川歴史民俗資料館・黒船館・黒川村公民館・北方文化博物館・富山県立図書館（中島文庫）・宮崎文庫記念館・金沢大学附属図書館・福井市立図書館（松平文庫）・小浜市立図書館・山梨県立図書館・長野県短大附属図書館・上田市立図書館（花月文庫）

柏屋別館・小諸市立図書館・諏訪市図書館・小布施町立図書館（鴻山文庫）・浜松市立賀茂真淵記念館・三島市郷土館（勝俣文庫）

名古屋大学附属図書館（岡谷文庫）・蓬左文庫・名古屋博物館・名古屋市鶴舞図書館・愛知県立大学附属図書館・愛知大学図書館（菅沼文庫）・中京大学図書館・大須文庫・西尾市立図書館（岩瀬文庫）・尾鷲市中央公民館

黒船館・柏屋別荘（花月文庫）・真淵記念館・三島郷土館が新規。宮崎文庫は静岡県清水市からの移

転で調査再開。

近畿地区

夢望庵文庫・京都府立総合資料館・京都大学附属図書館（平松家本）・同文学部（頼原文庫）・立命館大学附属図書館（西園寺文庫）

・陽明文庫・同（特殊本）・芦庵文庫・智恩寺・園部町教育委員会（小出文庫）・奈良女子大学附属図書館・天理図書館・大和郡山市柳沢文庫・大阪女子大学附属図書館

・広瀬捨三・神戸女子大学図書館・白鹿記念酒造博物館・温泉寺・篠山鳳鳴高校

天理図書館と柳沢文庫が新規。広瀬本は万葉展示に出品のもの。

中国・四国地区

鳥取県立博物館・津和野町立郷土館・太鼓谷稻荷神社・島根某家・岡山大学附属図書館（池田文庫）

・ノートルダム清心女子大学図書館・広島市立中央図書館・光藤葆光・三原市立図書館・山口大学附属図書館（棲息堂文庫）・岩国徴古館・西円寺・萩市立図書館・鎌田共済会図書館・善通寺・大洲市立図書館・八幡浜市立図書館・徳島県立図書館（森文庫）・丈六寺

・高知県立図書館（山内文庫）・土佐清水市民図書館・佐川町立青山文庫

棲息堂文庫が新規、青山文庫等は
予備調査

九州地区

九州大学附属図書館・祐徳稲荷
神社・長崎大学附属図書館・長崎
県立長崎図書館・島原図書館（松
平文庫）・松浦史料博物館・県立
対馬歴史民俗資料館・臼杵市立図
書館・杵築市立図書館・佐伯市教
育委員会・広瀬資料館・沖繩県立
図書館・石垣市立八重山博物館・

白杵が完了。杵築・佐伯・対馬
・長崎大学が新規。広瀬資料館は
予備調査を行なった。

海外

ライデン大学・オランダ国立民族
学博物館・新ルーバン大学図書館
・アラス市美術館・リール市立図
書館・デュボワ邸。

海外科研究費による調査。リール
本が中心。他は予備調査。

二、収集

本年三月までに左記の五三個所
の所蔵資料五七三九点を収集した。

北海道・東北地区

北海学園大学図書館・弘前市立図
書館・盛岡市中央公民館・仙台市
民図書館・酒田市立光丘図書館・
鶴岡市郷土館・初瀬川文庫

関東地区

茨城県立歴史館・早稲田大学図書

館・東京芸術大学図書館・同（脇
本文庫）・宮内庁書陵部・法政大
学能楽研究所（鴻山文庫）・東洋
文庫・川崎市市民ミュージアム・

秋山虔・石井庄司・宮崎修多・鈴
木淳

中部地区

新潟大学図書館・北方文化博物館
・石川県立図書館（李花亭文庫）
・金沢市立図書館（藤本文庫）
・山梨県立図書館（甲州文庫）・長
野県短大図書館・上田市立図書館
（花月文庫）・同（花春文庫）・名
古屋市鶴舞中央図書館・名古屋市
蓬左文庫（尾崎コレクション）
・愛知県立大学図書館・中京大学図
書館・大須文庫・新城ふるさと情
報館（牧野文庫）・西尾市立図書
館（岩瀬文庫）

近畿地区

正教蔵文庫・夢望庵文庫・京都大
学文学部（頼原文庫）・陽明文庫
・芦庵文庫・大和文華館・大阪女
子大学図書館・白鹿記念酒造博物
館・温泉寺

中国・四国地区

ノートルダム清心女子大学図書館
・三原市立図書館・岩国徴古館・
鎌田共済会図書館・善通寺・香川
某家・高知県立図書館（山内文
庫）

九州地区

祐徳稲荷神社（中川文庫）・熊本
大学図書館（北岡文庫）

海外

カリフォルニア大学バークレイ校
このうち川崎市市民ミュージアム
・香川某家は完了。仙台市図書館
・初瀬川文庫・ノートルダム清心
女子大図書館がスタートした。
平成六年度調査収集計画

本年度は、調査一六箇所（海
外を含む）八九五〇点、収集六一
箇所（同）五四七一点の計画を立
て、既に順次実行に移している。

篠山青山会文庫・広島専徳寺の調
査に着手、仙台市博物館伊達家本
青山会本・杵築市立図書館の収集
が新たに始まる。

海外資料の調査・収集

昨年度からの継続で、ライデン
大学・オランダ国立民族学博物館
のシーボルト本、新ルーバン大学
図書館等の海外科研究費による調査
を九月五日から十八日間の予定で
行なう。収集は右の諸館の外、カ
リフォルニア大学バークレイ校も
予定されている。

第四室

本年度は客員教授として学習院
大学文学部諏訪春雄教授が着任し
た。併任助教授は、前期は山口大

学教養部飯倉洋一助教授、後期は
山形大学教育学部名子喜久雄助教
授。いずれも専門分野の収集書目
の書誌的研究や特定研究の書誌学
用語の整理研究に参加していただ
いている。

その他

調査員地区会議は、北海道・東
北地区は仙台市で十月二十日
（木）に、中国・四国地区は十一
月四日（金）に広島市で開催の予定
を立てている。

特定研究の「古典籍学の確立、
体系化のための研究」は五年計画
の最終年度、既報の如く用語集の
作成作業を中心として、全八章の
残りの三章の「見出し語」案を調
査研究報告十五号に掲載した。平
成四年度までの海外科研究で調査し
たチェスタービーティ図書館の和
書目録解題を作成して、これも同
報告同号に掲載した。

本年度は人事異動はなく、当部
は同じ顔振られて仕事に励んでいる。
鈴木淳助教はUCLAの東アジア
図書館の依頼で版本目録を作成
すべく、七月十五日から九月三十
日まで出張している。

調査研究報告第十五号は三月三
十一付で編集刊行された。
（文献資料部長）

研究情報部事業報告

立川 美彦

平成五年度は、次の五室の体制で運営された。

- 情報資料室 武井協三室長
 - 情報分析室 松村雄二室長
 - データベース室 中村康夫室長
 - 情報処理室 安永尚志室長
 - 研究開発室 新井栄蔵室長
- 各室の業務の担当は、従来通りである。

情報資料室

第十七回国際日本文学研究集會を、十一月十一日、十二日に開催した。土曜日が休館となり木・金曜の開催となったため、参加者数の減少が懸念されたが、一・二一名（内外国人三七名）の参加があり、盛況のうちに研究集會を終えることができた。

国際日本文学研究集會委員会は、本年度で任期を終え、次年度よりメンバーを更新して、新たに発足することに。これにともない依頼発表者の増加、応募発表者のいっそうの厳選など、集會全体の質の向上を計る予定である。

国際日本文学研究集會業務に関

連し、当室では外国人研究員をはじめ外来研究員などの受け入れ業務や、外国からの問い合わせに対する回答なども、付帯的に行なっている。そのために、外国への出張の必要性なども生じており、業務の量は、年々増加している。教員数の少い当室のみではオーバーフローの状態であり、新たな国際室の設置が焦眉の課題となっていることを、報告しておく。

新聞情報掲載の国文学関係記事の収集は、シルバークリスタルを確保することにより、一定量の仕事が軌道に乗りだした。

館報は例年どおり二回の発行を行なった。

情報分析室

情報分析室の最大の業務である『国文学年鑑』平成四年版の編集を完了し、予定通り平成六年三月末に刊行することを得た。昭和六十一年度から導入したCTS（コンピュータライズド・タイプセットング・システム）作成システムその後の微調整もほぼ時を越し、

年度末の三月の刊行はこの四年間順調である。
平成四年版の概要はほば次の通りである。

◇雑誌・紀要・論文集所載論文数

一一、二三八件

◇新聞所載論文目録

三五件

◇学会一覧

三九学会

◇学会研究発表一覧

七二二件

◇新指定文化財目録

一四件

◇平成二年度文部省科学研究費等交付一覧

二三五件

◇受賞一覧

六八件

◇訃報

四八件

◇単行本目録

二、二八一件

◇取載雑誌紀要一覧

一、〇五八件

◇翻刻・複製一覧

一、一一〇件

◇執筆者索引

七、九六一人

総ページ数は、平成三年版より五〇ページ増の七七〇ページとなった。発行所による価格も昨年から一万円を越え、今年さらに多少値上がりした。こうした年間論文数の増加にともなう諸問題を含め、年鑑作成にかかわる情報分析室の将来には、次のような大きな二課題がたはだかっている。

問題

2 年鑑横組み化移行の問題と

国文学論文目録データベースとの関係の問題

1 は基本的には予算や定員関係の問題であり、2 は年鑑という現在の冊子形態の本質や存続にかかわる重要課題である。移転を契機とする将来構想をにらみながら、真剣に対処すべき時に来ているといえる。

データベース室

平成五年度は、国文学論文目録データベースについては、新規分として平成三年版、遡及分として昭和五十四・五十五年版のデータを、オンラインで検索できるデータベースに追加搭載した。それぞれのデータ件数は、平成三年版が一〇、八六二年、昭和五十四年版が六、七七二件、昭和五十五年版が五、九六七件である。これでオンラインに搭載されているデータは全部で一四、二〇二件になった。

平成五年度は、この論文目録データベースの検索精度を高めるために、キーワード処理に必要なHAPPINESSユーザ辞書の語彙拡張作業を実施した。現在、オン

ラインで利用していただいている国文学論文目録データベースは、多様な検索に対応すべくさまざまな工夫がなされているが、そのうちの一つであるキーワード付けには HAPPINESS というソフトウェアを利用している。

言うまでもなく、コンピュータは教えておいてやらないと何もできないので、こういう言葉があればキーワードとして切り出しなさいというふうに言葉を教えておいてやらないといけない。HAPPINESS 自身はある程度辞書に語彙を持っているが、その基本辞書は現代語であり、新聞・週刊誌には威力を発揮するが、国文学論文目録という専門用語の塊のようなデータには殆ど利用に耐えない。そこでほとんど語彙を登録してやる必要がでてくるのである。この必要語彙数には際限がないことは昨年度の館報にも書いた。先は長いが、平成五年度の処理を終えて、ユーザ辞書への登録語彙数は、古典が一八、二四四語、近現代が一四、一一五語である。検索できない語彙があるとすれば、それはその語彙がまだ登録されていないためである。

第三回国文学データベース研究

集会を十月一日開催した。参加者数は約六十名で昨年より約二十名増えた。内容は講演三本とフリートークで、講演は以下のとおりである。

・暦日データベースの構想

成田山仏教研究所 湯浅吉

美

・機械可読テキストの処理—アプリケーションからツールへ—

愛知県立大学 高木 元

・和歌語彙データベース

大阪樟蔭女子大学 西端幸

雄

なお、講演の内容は「国文学データベース研究集会報」第三号をご覧ください。

情報処理室

情報処理システムの運用・運転を除く平成五年度事業は、以下のように実施した。

(1) 学術情報ネットワークへのI/P

接続

十二月末に東京地域アカデミックネットワーク (TRA I N、東京大学) への加入を行い、ついで接続を行なった。

(2) OPAC (オンライン利用者目録) のサービス開始

四月から、OPACのサービスを開始した。これに伴い、O

PACデータの定期バックアップ等の運用体制を固めた。また、十一月から館内の研究室等の端末からのOPACの利用の試験運用を開始した。

(3) 目録作成

定常的な業務として、

① 国文学研究資料館蔵マイク

ロ資料目録 (一九九三)

② 国文学研究資料館蔵逐次刊

行物目録 (一九九三)

の版下作成を行なった。

(4) データ作成等

上記目録用データ及びその他のデータ合せて約二八、四〇〇

件のデータ入力を行なった。

また、八七字のJIS外字の

作成を行なった。

(5) 新規システムの導入

一般設備費によって、文献資料等の画像処理とネットワーク

サービスの実現を目的にした、

基盤実験設備「高機能イメージ

データステーション」の導入を行

行なった。主画像処理システム

に高速フルカラーワークステー

ション (シリコングラフィック

ス社製 indigo 2 XZ)、及び

データ通信実験のためのデジタ

ル専用回線の開設 (64 Kbps、

東京大学、及びルータの拡張と

ターミナルアダプタを含む) を行なった。

(6) システム開発

以下のシステム開発を行な

た。

① 日本古典文学作品本文データ

ベース運用システム

② 本文データ記述文法検査シ

テム

③ マイクロ資料目録・和古書目

録データベースの検索項目の

拡張

④ 古典籍総合目録作成システム

の機能改善

⑤ 和歌集等語彙検索システム

(パーソナルコンピュータ

版)

また、図書資料管理システ

ム (CCS) の新システムへの

移行についての検討を開始

した。

(7) 特定研究

平成五年度より五ヶ年の特定

研究「国文学研究資料館デー

ベースの分散管理・運用方式に

関する研究」を開始した。初年

度は計画の策定と基本調査研究

を実施した。

(8) 「国文学とコンピュータ」シ

ポジウムの開催

十二月九日に「源氏物語研究

とコンピュータ」をテーマに、第五回「国文学とコンピュータ」シンポジウムを開催した。六件の講演とパネル討論が行われた。約一四〇名の参加があり、活発な質疑があり盛会であった。

(9)人文系共同利用機関情報システム連絡会

第十回は国際日本文化研究センターに於いて開催された。当館より、「人文学研究のためのネットワーク構築」について提案を行い、これを基に討議した。

研究開発室

前年度事業報告にあるように、当室は平成四年四月一日付で設置され、神奈川大学知識情報研究所長の藤原鎮男教授が客員教授に任用されて今日に至っている。

この間、館の既往の情報処理システムおよび国文学データベースの構築の検証と今後の研究開発の課題の検討を行い、また、国文学データベース処理システムの在り方について、研究情報部教官および館外研究者による共同研究懇談会を数次にわたり開催した。その結果、当面および将来の作業目標が得られ、これを部長および館長に報告し、また提案した。

この提案に沿い、以下の要望が

なされ、作業が行われた。当面のシステム整備要望

現在稼働中の国文学データベースをなるべく早い時期に「渡り検索」し得るようにすること、その第一歩として、外部ユーザーが一回の検索で現行の三つの公開データベースにアクセス出来るようにし、さらに得られた検索結果をまとめる作業をなし得るようにすることが希望された。

さらに、当室の責任対象の一つとして国際対応の整備があるとの認識により、以下の事を行なった。

〔資料整備〕

まず最初の準備として、一九八二―九二年間に海外で刊行された日本文学関係図書約三〇〇点のうち古代中世関係約六〇点を購入し、また、近代文学を除く日本文学関係海外学位論文五六篇を購入した。〔英語表示国文学語彙リスト作成〕上記資料整備で購入した欧文図書のうち英書二〇冊の索引語彙約六五〇〇を入力、ファイル化した。さらに将来の国文学研究支援英和和英語彙の組織化の便を考え、この語彙のうち小西甚一著『日本文芸史（一部）』分約二〇〇〇語を、別途のファイルとした。

以上の準備と作業の上で立つて、

関連語・同義語までを含む英和国文学研究語彙システムの構築を検討した。この検討と具体化を引き継ぎ、実現へむけて努力すること、平成六年度の課題の一つである。

三月三十一日付で新井栄蔵研究

展示・講演会報告

万葉集 ― 広瀬本・近衛家本など ―

平成6年度の春季特別展示として、4月11日（月）～27日（水）に表題の通り万葉集の展示が行われ、また、期間中に関連テーマの講演会が左記のように行われた。

○4月15日（金）「広瀬本万葉集について」関西大学教授・木下正俊
○4月22日（金）「人麿の信仰と影供」当館助手・佐々木孝浩、「万葉集と漱石」当館館長・佐竹昭廣

展示は、非仙覚本系統の完本の出現として、昨年末マスコミにはなばなく報道された広瀬本万葉集（関西大学元学長広瀬捨三氏所蔵本）、また、陽明文庫から、近衛家伝来の未公開資料である近衛家本・古活字本（無訓・書入）万葉集や、柿本人麿像4幅、さらに石井庄司氏より書入版本万葉集等3点

情報部長が退官され、名譽教授の称号を授与された。新年度から部長職は新任の立川が引き継ぎ、慣例により研究開発室長を兼務することになった。従来にまさる御指導、ご協力をお願いしたい。（研究情報部長）

を、各所蔵者の御好意により同時に拝借し、館蔵貴重書等と共に展示させていただいたものである。当館としては、このような貴重な資料を館外から借り受けて展示するのは初めてのことであり、企画中に大学図書館等で古典籍の盗難頻発とのニュースも飛び込んだため、展示期間中は館員総出で二十四時間の警備体制を敷くなど、厳重な警戒に当たった。その甲斐あって、総計で展示には約千三百名、講演会には約五百名の来館者があり、盛況のうちに無事終了することができた。展示・講演会の記録は、期間中に参加できなかった多くの方の目に触れ得るよう、適切な形態を検討している。

整理閲覧部事業報告

大西 廣

本田康雄整理閲覧部長の後任として、本年七月一日に着任したばかりの私としては、まだ、前年度の事業報告を行える立場にない。前任部長からの事務引き継ぎにもとづき、以下に、整理閲覧部の平成五年度の事業報告を行うことにしたい。

平成五年度も、当部が担当する業務（資料の受入、整理、保存、利用サービス及び参考業務、公開講演会の開催、展示等）は、順調に進展した。

人事異動では、四月一日付で益田義孝情報サービス室長が東京学芸大学附属図書館情報サービス課長に転出し、後任に金原貴洋室長が（福井医科大学教務部図書課長から）着任した。また、古典籍総合目録作成事業を担当する情報整備係が新設され、歌野情報管理係長が情報整備係長になった。情報管理係長には高橋努事務官（東京大学附属図書館総務課から）が着任した。これに伴い情報管理係の戸田加代子事務官が情報整備係に

配置換となった。

平成六年三月三十一日付で、昭和五十四年度の整理閲覧部設置以来、部長を務めた本田康雄教授が停年退職となった。

(一) 情報サービス室

(1) 資料の受入

平成五年度の資料受入数は、マイクロ資料（ロールフィルム一、二七七リール、マイクロフィッシュ五、八三七枚、紙焼写真本一、四七四冊）、図書（二、二四八冊）、逐次刊行物（七、三六四巻号冊）、雑誌製本（二二五冊）であった。

(2) マイクロ資料の整理

「国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録一九九三年」を刊行した。収録書目数は、七、六四一点（二六文庫）である。

(3) 図書資料の整理等

一、五一九冊の図書（和古書を含む）を整理するとともに、学術情報センター目録システムを利用して活字本・影印本の遡及入力をして

開始し、四、二四三冊を入力した。また、OPAC（オンライン利用者目録）検索サービスを開始した。和古書の補修、帙作成を行った。

(4) 逐次刊行物の整理

新規受入れの一四一誌の書誌データ等を作成し、合計三、六七二誌の「国文学研究資料館蔵逐次刊行物目録一九九四年」を編集、刊行した。

(5) 古典作品典拠ファイル作成事業

読みの付与、著書コントロール作業等を継続し、約五七、〇〇〇件のデータを作成した。累計で約三〇五、〇〇〇件となった。

(6) 古典籍総合目録作成事業

データ作成では、データベース（所蔵目録）からデータシートへの転記作業を一五、五〇〇件行い、これまで累積した転記済みデータの中から約一一、三〇〇件を点検し、パンチした。また、典拠コントロール作業を本格的に再開し、約一八、五〇〇件の書誌データのコントロールを完了した。

古典籍専門のデータベースが少なくなってきた現在の現状を踏まえ、作成の対象となるデータベースの選定や資料の範囲について検討を行った。

(7) 閲覧業務
年間開室日数は前年度より七日少ない二二四日だったが、来館利用者数は前年度より一一％増え、九、八一〇人（一日平均四四人）、

所蔵資料統計

(平成6年3月末現在)

資料種別	点数	冊(リール)数
マイクロ資料	マイクロフィルム※	25,846リール
	マイクロフィッシュ	37,798枚
	紙焼写真本	58,066冊
図書(古書及び新刊書)	31,816点	88,420冊
逐次刊行物	3,672誌	115,783巻号冊
寄託図書	964点	4,313冊

※他に紙焼写真による収集がある。

新規登録者は一〇%増え、二八九人(一日平均一〇人)で、登録者の累計は、三〇、八四五人に達した。閉架資料の閲覧点数は、前年度より二六%増の二四、九二八点(一日平均一一点)であった。また、文献複写は、一三%伸び三〇、五五一件(一日平均一三六件)で、電子複写(含むリナープリンター)に二四五、五四四枚、紙焼写真二二、九一七枚、ポジフィルム三、八六九コマを複製した。

また、相互利用(郵送による文献複写・貸出)の複写受付は、三〇九三件で、前年度に比べ一五%増加、大学図書館等への資料の貸出は、二九件八二点一二八冊であった。

なお、例年どおり、四月末から五月初めにかけて資料のくん蒸、三月末には蔵書点検を実施した。

(8)資料の保存

当館所蔵原本(写本・版本)のマイクロ化事業は、約一五万コマ、八〇〇点の撮影を実施した。

保存用ネガフィルムの外部保管委託は、平成三年度収集分一、四八四リールを追加委託し、総計二一、三九二リールとなった。

(二) 参考室

(1) 参考業務
日常業務として、参考質問の受付・回答に従事し、参考図書の実と二階閲覧室の参考開架図書の維持・管理にあたった。

(2) 公開講演会

国文学の普及業務として、次のとおり公開講演会を開催した。

・第38回(6月25日、於当館)

「王朝和歌の享受―古今集を中心に―」新井栄蔵(当館教授)、「王朝物語の基本性格」野口元大(上智大学教授)

・第39回(10月30日、京都館)

「江戸文芸から新聞小説へ」本田康雄(当館教授)、「情の文学」濱田啓介(京都大学教授)・第16回夏期公開講演会「西鶴―没後三百年―」(7月28日〜30日、於当館)

28日「西鶴と出版ジャーナリズム」中嶋隆(横浜国立大学助教授)、「信濃路の西鶴」井上敏幸(福岡女子大学教授)

29日「西鶴のへぬけ」篠原進(青山学院大学助教授)、「西鶴と地方知識人」森川昭(帝京大学教授)

(次頁へ)

文庫紹介②

夢望庵文庫

夢望庵文庫は、乾憲雄氏(滋賀県俳文学会会長、甲西町教育委員等)の蒐集に成った俳諧資料の文庫である。所在地は、乾氏が住職をつとめる真宗大谷派正念寺(滋賀県甲賀郡甲西町菩提寺一二三二)内である。

昭和四十五年に火災にあった折、本尊の阿弥陀如来像と芭蕉翁木像の二体だけが難を逃れたという。無言の内にも、正念寺と俳諧資料の縁の深さを知らせてくれる出来事ではなからうか。

さて、収蔵品を大雑把に紹介すると次の如くである。近世から現代にいたる句幅、近世俳面賛句幅・短冊、俳人書簡、俳書、句碑拓本、歌人幅、歌人・俳人・狂歌人の短冊(近世〜現代)、漢詩短冊、九老・呉春らの画卷、芭蕉の肖像掛幅、そのほか画幅、めくりのいろいろなど。

それらの中から、その具体を少々紹介すると、近世俳面賛句幅では、宗鑑(風寒し破れ障子の神無月)、立甫(飛梅や唐まで自由自在天)、許六(野からすの腹に蹴てゆく春の水)、乙由(苗代にか、しはあれど春のくれ)、蕪村の「三十六俳仙図」そのほか其角、

一晶、山東京伝のものなど。書籍の方では「新三百韻」(写本・元禄三成)、「黙々翁点俳諧点取集」(天明三写)等々である。

夢望庵文庫の全貌ははまだ明らかならざる部分が多いが、乾氏の御著書によって、かいまみる事ができるので、次にその書目をあげ

- ① 夢望庵文庫蔵 俳面賛句幅(近世組)
- 昭和六二年・夢望庵文庫発行
- ② 俳面賛句幅(近代組)
- 平成四年・夢望庵文庫発行
- 定価二七〇〇円
- ③ 夢望庵文庫蔵 芭蕉翁の肖像百影
- 昭和五十九年・光琳社出版
- 発行・定価三六〇〇円
- ④ 夢望庵文庫蔵 夜宿雁(近世公卿和歌短冊二〇巻 平成三年)
- ・夢望庵文庫発行
- ⑤ 夢望庵雑筆(一一)〜(一)義仲寺(二〇〇号) 昭和五十八年

当館の調査は平成三年から開始し、現在までの調査点数は、細目カードで一四三三点程である。フィルム撮影も同時に開始し、俳面賛句幅のフィルムも利用可能である。(文献資料部 和田 恭幸)

共同研究報告(追加)

文学及び古典テキストの
データベース開発と

その利用のための基礎的研究

安 永 尚 志

海外では大規模なテキスト・データベース、電子化辞書、文章解析プログラム等が開発され、文学や古典研究を始めとして比較言語学、比較文化学など学際的な研究に広く利用されている。また、近年日本研究も盛んになり、各国の大学に専門の学科が設立され、基礎となる文学や古典のテキスト・データベースに対する需要も高まってきている。このような状況から、本研究はコンピュータを使った国際的な日本研究支援のために、どのような環境整備が必要かを総合的に検討することを旨として組織された。

合計七回にわたって熱心に行われた研究会では、先行する海外のデータベース及びソフトの開発の状況や、近年の国内の動向の分析に留まらず、実際にネットワーク経由で当館からオックスフォード大学へテキストの移植実験を行うなど、将来の国際協力を展望した具体的な成果をあげることができ

た。

以下に各回の研究会の主な討議項目をあげる。

第一回研究会

三つの研究会集「国際日本文学研究集会」、「国文学研究データベース研究会」、「国文学とコンピュータシンポジウム」の現状と課題について討論を行った。続いて海外の研究集会である「Association for Asian Studies(AAS)」と「European Association for Japanese Studies(EAJS)」について、ワトソンと長瀬が報告した。また、内田より古典テキストデータベースを積極的に利用している「情報語学文学研究会」の活動について報告があった。

第二回研究会

ハリーズから、英国の日本研究のためのコンピュータ利用計画と進行状況の報告があった。中村より「歴史物語・和歌に登場する実在の人名・地名索引」の紹介があった。

第三回研究会

アーマーよりカラマズー・国際カンファレンスの紹介があり、コンピュータを使った中世英語文献の研究動向が報告された。

第四回研究会

安永、原、アーマーよりオックスフォード大学へのネットワークを使った「断本」移植実験の報告があった。その際 Windows用のソフトの提供が課題となったが、平成六年二月には無事 PDS 日本語ワープロを稼働させることが出来た。

第五回研究会

ワトソン、アーマーより最近の Internet や CD-ROM の詳細について調査報告があった。

第六回研究会

人文系のコンピュータ利用の分野で草分け的存在であるスーザン・ホッケイ氏が来館し、最近の人文科学でのコンピュータ利用について紹介があった。当館のテキスト・データベースやハイパーメディアを利用したテキスト開発技術を題材として、米国の将来の提携の可能性が検討された。

第七回研究会

文学研究におけるコンピュータ利用が欧米に比して遅れている点が見らくなった。今後の課題として、① 国内のデータベース開発の状況を調査し、各種学会・プロジェクトで作成されているデータベースのリスト、公開状況、入手の仕方を調査すること、② 海

外の動向を調査しデータベース開発や研究支援にどのようなインフラ整備が必要かを提言の形でまとめること、③ 海外の研究者の要望をまとめ、データベースの国内外へのサービスを促進する。以上の三点が確認された。

(前頁より)

30日「硯石」の西鶴」井口洋(奈良女子大学教授)、「晩年の西鶴」神保五彌(早稲田大学名誉教授)

なお、第16回夏期公開講演会の筆録集である「国文学研究資料館講演集15 西鶴―没後三百年―」を刊行し、大学図書館等への寄贈のほか、希望者にも配布している。

(3) 展示

平成五年度に開催した常設展示は次のとおりである。特別展示は行わなかった。

第54回「和書のさまざま」(4月

12日〜6月25日)

第55回「版本の挿絵」(7月12日〜

9月24日)

第56回「仏教と文学」(10月12日〜

12月24日)

第57回「史書と日記」(1月17日〜

3月24日)

(整理閲覧部長)

新収資料紹介⑧
小沢蘆庵自筆

『振分髪』

掲出本は、著者の小沢蘆庵自筆「振分髪」写本一冊で、書誌は次の通り。

紺色地青海波に鴛鴦文金襴表紙を後補、紫色の木綿糸を二本通して綴じる。二七×一九・四種。外題は表紙左上に砥粉色地金色霞文の布題簽（原題簽カ）を貼り、「不里和気髪」と記す。見返しは金砂子散らし文の烏子紙。袋綴装。墨付三五丁、前後に遊紙各一丁。料紙は楮。各丁の左下隅に小紙片を三角形になるよう表裏に貼込み、手擦れを防ぐ。

毎半丁八行書、和歌は二行書。朱書は、読点、鈎点、頭書その他の注記、訂正箇処など。表記は漢字平仮字交じりで、頭書の一部は片仮名交じり。奥に「丙辰春洛東因南亭に筆をとる 蘆庵」とある。印記はなく、伝来は不明であるが、ふと契沖を思わせる温和、横直な字体は、静嘉堂文庫の自筆歌稿「六帖詠藻」で目馴れた蘆庵のそれに紛れもない。頭書の朱書は、

やや速筆で崩れているが、本行は相当、謹直な行草体と言いうる。

本書は、初心者向け歌学書として、歌の基本理念、同心異句、同句異心の例歌、てには、詞の五種、自他の別などを平易に説いたもの。板本が出る以前、「放髪」の書名で、すくなくとも寛政七年二月以前に写本で行われていたことが、

佐佐木信綱の「万葉漫筆」の「蘆庵と久老」によって知られるが、掲出本は、出板直前の寛政八年（丙辰）春に清書されたものであろう。板本は、同じ奥書の後に蘆庵の跋を添え、反故の中から吉田元長が本書を見付けて開板を切望した由を記す。刊記には、「寛政八年丙辰三月／京都二条富小路東入町／吉田四郎右衛門」とあるが、

版元の元長は、蘆庵の門弟で、「布留の中道」「袖中和歌六帖」などの師の編著を手懸けた京都の書肆。

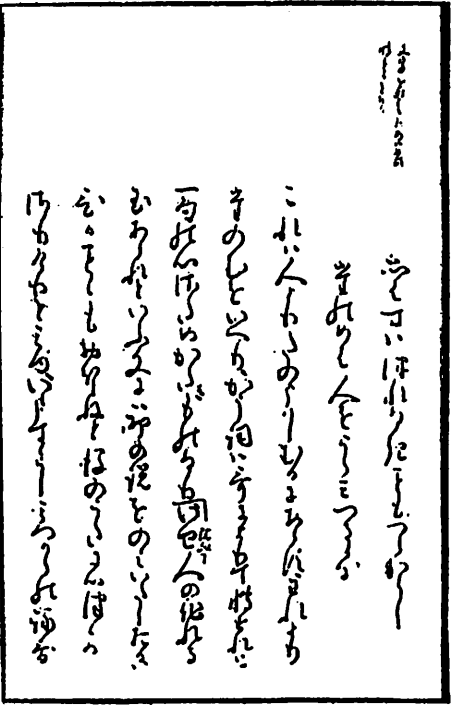
掲出本と板本を比較すると、字配や行配も比較的近似する反面、本文の出入りや頭書の存在など、目立った異同も存する。そのうち特筆すべきは、掲出本の十三丁裏

から十四丁表にかけて、「たのめ」の説明の終りの部分に、朱で鈎印を付し、「除以下」と記して、次のようにあることである。

いせ人の作れる玉あられといふ文に、初の説をのみいたしたるはひかこと、もおほえねと後のうたに心つかさりけりとみゆ、いますこしみつからの詠歌のためにまなはれは詞はうたによりて転することをもわきまへ、あらはず文にもさるよしをしるさるべきに、これのみならずたかへること

のみゆるは人のみんためをのみ（文あらはずことのみ）おもひて、みつからの詠歌に心をいれらる、ことほうとしとみゆれば、所につきたる、ひかことの名をやおほるべきと、いとをしこそおほゆれ

右は宣長の「玉あられ」（寛政四年刊）の考説を批判したものであるが、蘆庵には現在、佚書ながら「玉篋難詞」なる著述があったとされており、その内容の一斑を窺うべき資料としても貴重であろう。（文献資料部・鈴木淳）



特別新収和古書のお知らせ

金春禅竹自筆伝書二点

「五音之次第」

「五音三曲集」

「六輪一露之記」(紙背、「歌舞髓脳記」草稿)。

奈良在住のシテ方金春流能楽師で、金春禅竹の御子孫にあたられる金春欣三氏の特別の御配慮と御好意によって、以上三点の禅竹自筆能楽伝書が当館に寄せられる運びとなった。未紹介の禅竹自筆本が出現したことは、今後の能楽研究に大きく寄与するところであり、金春欣三氏への謝意も兼ね、ここに紹介する。

禅竹自筆伝書は、世阿弥伝書やその他の能楽伝書とともに、長く金春大夫家に伝来し秘蔵されていたが、明治時代に別家伝来本も含めて大半が流出した。その過半は奈良生駒の宝山寺に入り、現在、金春家伝来伝書は、宝山寺、法政大学能楽研究所、同般若窟文庫、同鴻山文庫、金春宗家に分散して保存されている。しかし、元和七年に作られた「金春家之書物之日記」によれば、なお不明の伝書も数点あり、何等かの理由で他に流

出したものもあると思われるが、現存の可能性すら不明であった。この三点もそのような運命にあつたのだが、偶然にも昭和四十七年秋に金春欣三氏の入手されることとなった。そこに至る経緯は種々推察されるところではあるが、数奇な運命を辿って、幸運にも御子孫の元に戻つたというべきであろう。金春氏は、御先祖のものだからと大切に秘蔵されておられたが、貴重な学問的資料でもあり、個人で所蔵しているよりはと、公的機関への寄贈をお考えになり、このたび、樹下好美氏の仲介で国文学研究資料館に快く譲りいただくことになった。他の禅竹伝書等から判断して、三点とも金春禅竹自筆に相違なく、昭和三十九年「明宿集」発見以来の禅竹自筆本の出現である。以下、簡単に書誌を紹介しておく。

「五音之次第」未装折本一帖。

縦二〇・七糎、横一一・二糎。料紙はやや厚手の楮紙で、墨付九折天地に墨界、片面五本の白界あるも、行配りは界線に依らず六・八行。冒頭は「五音之次第」から始まり、末尾に享徳四年の識語、署名・花押がある。内容は転写本たる八左衛門本にほぼ同じで、「六輪曲味」を付載するが「幽玄三輪」はない。

「五音三曲集」仮綴袋綴本一冊。縦二七・二糎、横二〇・三糎。濃藍色の表表紙のみあり、墨書題簽を貼る。料紙は楮紙で墨付四四丁。片面八行だが、四二丁裏以後は行数増加。内容は八左衛門本にほぼ同じだが、墨・朱の訂正書き入れが多く、墨減箇所について八左衛門本は訂正後の本文のみを採用している。末尾に長祿四年の識語、署名・花押あり。

「六輪一露之記」仮綴袋綴本一冊。縦二八・〇糎、横二一・八糎。第一紙表及び最終紙裏に柿渋を引いて表紙とし、左肩に「一大事秘書也／六輪一露之記」と墨書。料紙は前書と同じ楮紙で、全三二丁。行数は「六輪一露之記」のみほぼ片面七行で固定するが、他は一定

しない。八左衛門と同じく各種の書物が書き継がれており、「六輪一露之記」末尾に康正二年の識語、署名・花押がある。なお、二丁分の紙背に、草稿と目される「歌舞髓脳記」が書かれている。

三点とも、その内容は転写本である金春八左衛門本によって知られており、「金春古伝書集成」に翻刻・一部影印で載せられている。転写本はかなり忠実な書写態度であるが、自筆本の存在に比すべくもなく、自筆本の発見が今後の研究に大きな意味を持つことは言うまでもなからう。最後に金春欣三氏、及び仲介者の樹下好美氏に感謝申し上げる。

なお、これらは一定の補修・整理期間を要するため、閲覧可能になるのは来年度以降の見通しである。

(文献資料部 樹下文隆)



利用者へのお知らせ

◆来館利用の皆様へ

下のグラフは、平成五年度の月別利用状況です。毎年、七月下旬から十二月上旬頃まで利用者が非常に多くなります。また、年間を通して、午後になると混み合う傾向がみられます。特に文献複写の申込受付は、午前中の方が比較的短い時間で対応できます。是非、すいている時間帯にご利用くださいますようお願いいたします。

(一) 閲覧時間

九時～十七時

(二) 文献複写受付時間

九時三十分～十五時三十分

(三) 資料請求受付時間

九時三十分～十二時、十三時～十六時三十分

(四) 休室日

① 日曜日、土曜日、祝日、振替休日
② 毎月末日(末日が日・土の場合)
③ 資料くん蒸期間(四月末～五月にかけて五日間)
④ 年末年始(十二月二十七日～一月五日)

◆来館できないかたへ

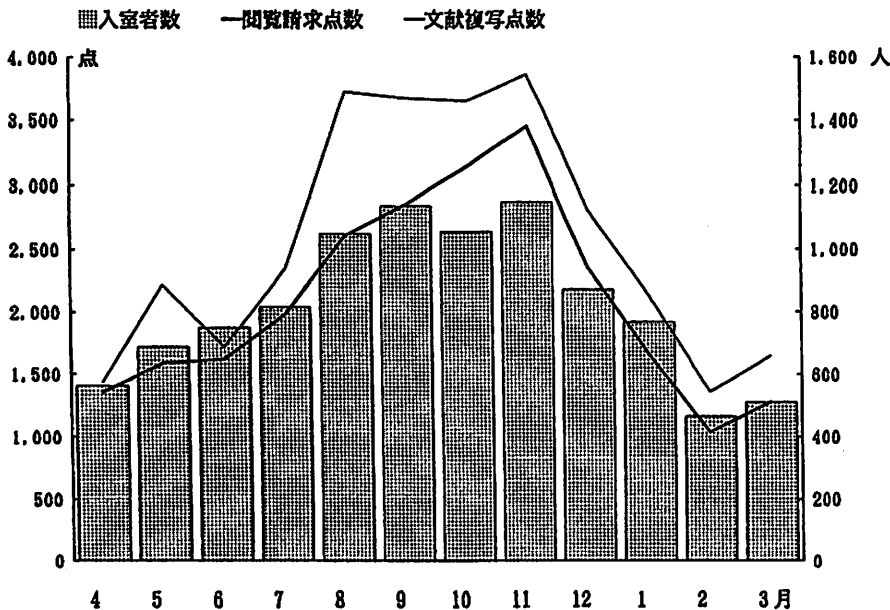
大学等に所属している場合は、所属機関の図書館に申し込むだけで当館所蔵資料の閲覧や文献複写ができます。貸出できる資料は、紙焼写真本(ただし、サービス区分A、Bのもの)と図書(ただし、和古書、参考開架図書、損傷しやすい図書を除く)で、一機関あたり十冊または十五冊以内、期間は発送日及び返納日を含めて三十一日間となっています。文献複写は各館からの申込に対し、納入告知書により複写料金を請求しますので、最寄りの銀行にお支払いください。詳細は、リーフレット「共同利用のてびきー相互協力サービス案内」をご覧ください。なお、資料複写料金徴収猶予の取扱いを実施しています。手続き等は情報サービス係にお問い合わせください。また、大学等に所属していないかたからの郵便での複写申込も受け付けています。資料名、請求記号、複写方法を明記してお申し

⑥ その他

⑤ 蔵書点検期間(三月二十五日～三月三十一日)

込みください。

平成5年度月別利用状況



彙報

委員会日誌
平成6年

5月12日 国文学文献資料収集
計画委員会(第一
回)

5月20日 自己点検・評価委員
会(第二回)

5月26日 国文学文献資料調査
員会議(総会)

7月14日 共同研究委員会(第
一回)

7月19日 文献目録委員会(第
一回)

8月9日 国際日本文学研究集
会委員会(第一回)

評議員会の開催について
本年度第一回評議員会が平成六
年七月二十日(水)に開催され、
会長に秋山評議員が、副会長に尾
藤評議員がそれぞれ就任した。議
事は、名誉教授の承認、管理運営
の概況、平成五年度事業報告及び
平成七年度概算要求について評議
が行われた。

運営協議会の開催について
本年度第一回運営協議員会が平
成六年六月二十二日(水)に開催
され、会長に松野運営協議員が就

任した。議事は、名誉教授の候補
者、管理運営の概況、平成五年度
事業報告及び平成七年度概算要求
については協議が行われた。
外国出張
武井 協三
渡航先 デンマーク及び連合
王国

目的 第7回ヨーロッパ日
本学会出席及び研究
発表並びに欧米文学
研究者のコンピュ
タ環境調査

期 間 平成6年8月19日
平成6年8月31日

原 正一郎
渡航先 デンマーク及び連合
王国

目的 国文学データベース
の学術情報網による
国際共同利用に関す
る研究のため

期 間 平成6年8月19日
平成6年9月10日

佐々木孝治
渡航先 デンマーク及び連合
王国

目的 国文学データベース
の学術情報網による
国際共同利用に関す
る研究のため

期 間 平成6年8月19日
平成6年9月10日

渡航先 デンマーク及び連合
王国

目的 国文学データベース
の学術情報網による
国際共同利用に関す
る研究のため

期 間 平成6年8月19日
平成6年9月10日

渡航先 デンマーク及び連合
王国

目的 国文学データベース
の学術情報網による
国際共同利用に関す
る研究のため

期 間 平成6年8月19日
平成6年8月31日

海外研修旅行
鈴木 淳
渡航先 アメリカ合衆国

目的 国文学に関する文献
資料の調査研究のため

期 間 平成6年7月15日
平成6年9月30日

渡航先 アメリカ合衆国

目的 国文学に関する文献
資料の調査研究のため

期 間 平成6年7月15日
平成6年9月30日

渡航先 アメリカ合衆国

目的 国文学に関する文献
資料の調査研究のため

期 間 平成6年7月15日
平成6年9月30日

渡航先 アメリカ合衆国

目的 国文学に関する文献
資料の調査研究のため

期 間 平成6年7月15日
平成6年9月30日

渡航先 アメリカ合衆国

目的 国文学に関する文献
資料の調査研究のため

期 間 平成6年7月15日
平成6年9月30日

渡航先 アメリカ合衆国

目的 国文学に関する文献
資料の調査研究のため

授与規程に基づき、平成6年7月
20日付で、次の方に称号が授与さ
れた。
○新井榮藏 昭和6年3月25日生
平成元年4月1日から平成6年
3月31日まで教授として在職。
○本田康雄 昭和5年10月31日生
昭和47年8月1日から助教として在職、引き続き昭和52年4月
1日から平成6年3月31日まで
教授として在職。

授与規程に基づき、平成6年7月
20日付で、次の方に称号が授与さ
れた。
○新井榮藏 昭和6年3月25日生
平成元年4月1日から平成6年
3月31日まで教授として在職。
○本田康雄 昭和5年10月31日生
昭和47年8月1日から助教として在職、引き続き昭和52年4月
1日から平成6年3月31日まで
教授として在職。

《セミナー「原典を読む」》

当館では昨夏より「原典購読セ
ミナー」を開催した。これにと
ない平凡社より「セミナー「原典
を読む」が刊行されている。
既刊分は次のとおり。

「浮世風呂・浮世床・世間話の文
学」 本田康雄著

「書の秘伝―入木道の古典を読む
―」 新井榮藏著

「千載集―勅撰和歌集はどう編ま
れたか―」 松野陽一著

「古文書が語る近世村人の一生」
森安彦著

定価は各二千円で市販されてる。

評議員

任期 平成6年7月1日〜平成8年6月30日

- 秋山 虔 駒沢女子大学人文学部教授、東京大学名誉教授
- 網野 善彦 神奈川大学短期大学部教授
- 石井 進 国立歴史民俗博物館長、東京大学名誉教授
- 猪瀬 敬二 安田女子大学文学部教授、広島大学名誉教授
- 河合 雄 学術情報センター所長、東京大学名誉教授
- 京極 純一 京都大学名誉教授
- 久保田 淳 白百合女子大学文学部教授、東京大学名誉教授
- 小玉 正任 国立公文書館顧問
- 小林 清治 東北学院大学文学部教授、福島大学名誉教授
- 佐野 文一郎 東京国立博物館長
- 堤 精二 悠天財團副理事長、基の女子大学名誉教授
- 濱田 啓介 花園大学文学部教授、京都大学名誉教授
- 秀村 選三 久米大学比較文化研究所長、九州大学名誉教授
- 尾藤 正英 川村学園女子大学文学部教授、東京大学名誉教授
- 平岡 敏夫 群馬県立女子大学長、筑波大学名誉教授
- 藤澤 令夫 京都国立博物館長、京都大学名誉教授
- 水谷 修 国立国語研究所長
- 水谷 静夫 勸学館計画研究所理事
- 吉川 弘之 東京大学長

運営協議員

任期 平成6年8月1日〜平成8年7月31日

- 朝尾 直弘 京都大学附屬図書館長、文学部教授
- 有吉 保 日本大学文学部教授
- 伊藤 正義 神戸女子大学文学部教授、大阪市立大学名誉教授
- 大口 勇次郎 お茶の水女子大学文学部教授

(館外)

共同研究委員会委員

任期 平成6年7月1日〜平成7年3月31日

- 竹内 美智子 共立女子短期大学教授
- 柄尾 武 成城大学文芸学部教授
- 延廣 眞治 東京大学教養学部教授
- 野山 嘉正 東京大学文学部教授
- 日野 龍夫 京都大学文学部教授
- 吉原 健一郎 成城大学文芸学部教授
- 稻賀 敬二 安田女子大学文学部教授
- 小笠原 恭子 武蔵女子大学文学部教授
- 中野 三敏 九州大学文学部教授
- 野村 精一 実践女子大学文学部教授
- 松浦 友久 早稲田大学文学部教授
- 水原 一 駒澤大学文学部教授

国文学文獻資料収集計画委員会委員

任期 平成5年4月1日〜平成7年3月31日

- 麻原 美子 日本女子大学文学部教授
- 久保木 哲夫 都留文科大学文学部教授
- 徳江 元正 国学院大学文学部教授
- 真鍋 俊照 神奈川県立倉敷文庫副館長
- 渡邊 守邦 実践女子大学文学部教授

任期 平成6年4月1日〜平成8年3月31日

- 池上 洵一 神戸女子大学文学部教授
- 糸井 通浩 龍谷大学文学部教授
- 多治比 郁夫 大阪府立中之島図書館嘱託
- 名和 修 勸学館文庫文庫長
- 横山 邦治 広島文教女子大学文学部教授

国際日本文学研究集会委員会委員

任期 平成6年7月1日〜平成8年3月31日

- 今西 裕一郎 九州大学文学部助教授
- 谷川 恵一 高知大学文学部助教授
- 平岡 敏夫 群馬県立女子大学長
- 松平 進 甲南女子大学文学部教授

文獻目録委員会委員

任期 平成6年4月1日〜平成8年3月31日

情報システム委員会委員

任期 平成6年8月1日〜平成8年3月31日

- 池内 輝雄 筑波大学文芸・言語学系教授
- 揖斐 高 成蹊大学文学部教授
- 遠藤 宏 成蹊大学文学部教授
- 菊池 仁 山形大学文学部教授
- 後藤 祥子 日本女子大学文学部教授
- 小町谷 照彦 東京学芸大学教育学部教授
- 鈴木 日出男 東京大学文学部教授
- 瀬戸 仁 中央学院大学法学部教授
- 滝藤 満義 横浜国立大学教育学部教授
- 野山 嘉正 東京大学文学部教授
- 原 道生 明治大学文学部教授
- 安田 尚道 青山学院大学文学部教授
- 石塚 英弘 図書館情報大学図書館情報学部教授
- 稲岡 耕二 上智大学文学部教授
- 井上 如 学術情報センター教授
- 島村 隆夫 国立国会図書館総務部情報処理課長
- 白石 悌三 福岡大学文学部教授
- 杉田 繁治 国立民族学博物館第5研究部教授

国文学研究情報研究専門員

任期 平成6年4月1日～平成7年3月31日

- 背木周平 国学院大学文学部助教授
- 鈴木勝美 文京女子短期大学助教授
- 辻井正憲 日本大学文学部助教授
- 寺井正憲 千葉大学教育学部講師
- 前田雅之 東京女子短期大学助教授
- 宮崎修多 成城大学文学部講師
- 内田保廣 共立女子大学文学部助教授
- 唐沢正実 鷺宮高等学校教諭
- 久保木哲夫 都留文科大文学部助教授
- 中野猛 都留文科大文学部助教授
- 深澤真二 和光大学人文学部講師
- 山口明穂 東京大学文学部教授

共同研究員

任期 平成6年4月1日～平成7年3月31日

- 課題名「中世古典注釈書の研究」
- 井爪康之 愛知教育大学教育学部教授
- 岩坪健 親和女子大文学部助教授
- 渋谷栄一 高千穂商科大学商学部教授
- 山本登朗 光華女子大文学部教授
- 渡瀬茂 富士フェニックス短期大学講師
- 課題名「情報処理システムの和歌文学への応用に関する研究」
- 新井榮藏 長野工業高等専門学校校助教授
- 戸谷精三 日本橋女学館中・高等学校教諭
- 服部一枝 日本橋女学館中・高等学校教諭
- 半田志郎 長野工業高等専門学校校助教授

課題名「三条西実隆の古典学」

- 石神秀美 鶴見大学文学部非常勤講師
- 岩下武彦 東京女子大文学部助教授
- 江富範子 京都女子大文学部助教授
- 杉田昌彦 京都女子大文学部助教授
- 鈴木宏子 青山学院女子短期大学非常勤講師
- 千艘秋男 東洋大学文学部助教授
- 深澤真二 和光大学人文学部講師

課題名「六条藤家歌学の諸伝本に関する研究」

- 浅田徹 早稲田大学大学院博士課程
- 蘆田耕一 島根大学文学部助教授
- 竹下豊 大阪女子大文学部助教授
- 西村加代子 神戸学院女子短期大学教授
- 藤岡忠美 昭和女子大大学院教授

任期 平成6年9月2日～平成7年3月1日

課題名「源氏物語」の研究」

- ロイヤル・タイラー 国文学研究資料館員教諭
- 今西裕一郎 九州大学文学部助教授
- 勝原菜温子 恵泉女学園大学人文学部助教授
- 藤井貞和 東京学芸大学教育学部教授
- 松井健児 昭和学院短期大学助教授

自己点検・評価委員会委員

任期 平成5年4月1日～平成7年3月31日

- 有吉保 日本大学文学部教授
- 大口勇次郎 お茶の水女子大文学部助教授
- 平澤五郎 慶応義塾大学附属研究所道文庫教授

第18回国際日本文学研究集会の御案内

日時 平成6年11月10日(木)・11日(金)

会場 国文学研究資料館 一階大会議室

申込 当日受付可。参加費一、〇〇〇円・レセプション参加の方は三、〇〇〇円追加・公開講演のみ聴講の方は無料。

十一月十日(木)

研究発表(一時二〇分)

○フランス語訳から見た井原西鶴 畑中千晶

○太平記の死の様相と論理 崔文正

○西洋詩歌と和歌の無常観 アレクサンドル・ドーリン

○「怪しい神」に誘われて「蓬萊曲」の「鬼」を読む 蘭明

○永井荷風と「紅楼夢」 吳佩珍

○近代日本の修辞学研究の特質―その一つ西洋の修辞学変遷の再現― マッシミリアーノ・トマシ

レセプション(五時三〇分)

十一月十一日(金)

研究発表(十時三〇分)

○幕末・明治期の「蒙求」 相田満

○写本「魯齊亞國睡夢談」について 生田美智子

○昌平塾北寮殺人事件 ロバート・キャンベル

公開講演(一時二〇分)

○「英日国文学研究語彙リスト」の作成を試みて―東西の比較― 藤原鎮男

○わがごとくわれを思はん人もがな―中世フランスから見た王朝の「恋」―

ロイヤル・タイラー

人事異動 (平成6年3月~平成6年8月)

【館長】

発令年月日	氏名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
6. 4. 1	佐竹昭廣	(命) 整理閲覧部長事務取扱 (免)	館長
6. 7. 1	佐竹昭廣	整理閲覧部長事務取扱	館長

【教官】

6. 4. 1	新井榮藏 本田康雄	(停年退職) 6. 3. 31限り停年退職 6. 3. 31限り停年退職	研究情報部教授 整理閲覧部教授
6. 4. 1	立川美彦 諏訪春雄	(採用) 研究情報部教授 文献資料部客員教授(7. 3. 31まで)	学習院大学文学部教授
"	藤原鎮男	研究情報部客員教授(7. 3. 31まで)	作陽短期大学教授、同短期大学部長
"	馬淵久夫	史料館客員教授(7. 3. 31まで)	
6. 7. 1	大西廣	整理閲覧部教授	
6. 4. 1	高木俊輔	(配置換) 史料館教授	信州大学人文学部教授
6. 4. 1	森安彦 森安彦	(併任解除) 史料館第一史料室長 史料館情報閲覧室長	史料館教授 史料館教授
6. 4. 1	立川美彦 立川美彦	(併任) 研究情報部長 研究情報部研究開発室長	研究情報部教授 研究情報部教授
"	高木俊輔	史料館第一史料室長	史料館教授
"	鈴木英一	史料館情報閲覧室長	史料館教授
"	飯倉洋一	文献資料部助教授(6. 9. 30まで)	山口大学教養部助教授
6. 6. 24	松野陽一	企画調整官 (副館長)	文献資料部教授
"	中川博夫	研究情報部助教授(7. 3. 31まで)	徳島大学総合科学部助教授
6. 7. 1	大西廣	整理閲覧部長	整理閲覧部教授

【事務系職員】

6. 4. 1	山口博基	庶務課長	京都大学庶務部国際交流課長
"	竹之内重雄	庶務課事業係事業主任	庶務課庶務係庶務主任
"	林宏保	庶務課共同利用係共同利用主任	庶務課事業係事業主任
"	柳澤武	会計課管財係管財主任	会計課管財係
"	楠原良成	庶務課庶務係	会計課経理係
"	神谷真司	会計課総務係	会計課用度係
"	前田輝伸	会計課用度係	庶務課事業係
"	野田佳孝	会計課経理係 (採用)	
6. 7. 25	森澤良水	管理部長	金沢大学庶務部長
6. 8. 1	神山忍	庶務課課長補佐	東京大学海洋研究所総務課専門職員
6. 3. 31	近藤吉明	辞職	会計課総務係
6. 4. 1	松岡憲雄	神戸大学庶務部庶務課長	庶務課長
6. 7. 25	六車正章	国立乗鞍青年の家所長	管理部長
6. 8. 1	伊達孝臣	東京大学理学部事務長補佐	庶務課課長補佐

古典籍総合目録委員会委員

任期 平成5年4月1日～平成7年3月31日

- 加美 宏 同志社大学文学部教授
- 近藤 禮提男 東京大学附属図書館事務部長
- 柴田 光彦 跡見学園女子大学文学部教授
- 堤 精二 放送大学教授
- 馬場 萬夫 国立国会図書館古典籍課課長
- 益田 宗 国立歴史民俗博物館歴史研究部教授

国文学文献資料調査員

任期 平成6年4月1日～平成7年3月31日

- (北海道・東北)
- 家井 美千子 岩手大学人文社会科学部助教
- 石井 行雄 北海道教育大学教育学部副路校助手
- 白田 昭吾 弘前大学人文学部教授
- 菊地 仁 山形大学人文学部教授
- 志立 正知 山形県立米沢女子短期大学助教
- 高橋 伸幸 札幌大学女子短期大学部教授
- 田中 初恵 いわき明星大学人文学部助手
- 寺島 恒世 山形大学教育学部助教
- 仁平 道明 東北大学文学部教授

(関東)

- 青柳 隆志 東京成徳短期大学助教
- 市古 夏生 お茶の水女子大学教育学部教授
- 稲垣 泰一 筑波大学文芸言語学系教授
- 稲田 篤信 東京都立大学人文学部助教
- 落合 博志 法政大学第一教養部助教
- 小野 尚志 帝京大学文学部助教
- 鹿倉 秀典 関東短期大学助教
- 竹下 義人 日本大学文学部講師
- 田中 大士 文部省初等中等教育局教科書調査官
- 得丸 智子 明治大学法学部非常勤講師
- 堀川 貴司 東京大学文学部助手

(中部)

- 伊藤 伸江 愛知県立女子短期大学講師
- 木越 治 金沢大学教養部助教
- 黒田 彰 愛知県立大学文学部助教
- 塩村 耕 福山女学園大学短期大学部助教
- 島原 泰雄 皇学館大学文学部教授
- 下西 善二郎 上越教育大学学校教育学部助教
- 高木 清元 愛知県立大学文学部助教
- 高橋 清隆 静岡美和女学院短期大学助教
- 玉城 直司 清泉女学院短期大学助教
- 服部 直子 愛知教育大学非常勤講師
- 深澤 真二 和光大学人文学部講師
- 船城 俊太郎 新潟大学人文学部教授
- 安田 徳子 聖徳学園岐阜教育大学教育学部教授
- 安田 文吉 南山大学文学部教授
- 柳澤 昌紀 中京大学文学部講師
- 山本 一 金沢大学教育学部助教

(近畿)

- 赤間 亮 立命館大学文学部助教
- 安達 敬子 京都府立大学女子短期大学部講師
- 日下 幸男 大阪市立都島第二工業高等学校教諭
- 千葉 真也 相愛大学人文学部助教
- 中前 正志 京都女子大学文学部講師
- 藤田 眞一 京都府立大学女子短期大学部教授
- 森田 雅也 関西学院大学文学部講師
- 山本 秀樹 京都大学文学部助手

(中国・四国)

- 飯倉 洋一 山口大学教養部助教
- 上田 設夫 鳥取大学教養部教授
- 久保田 啓一 梅光女学院大学文学部助教
- 杉本 好伸 安田女子大学文学部助教
- 竹村 信治 広島大学教育学部助教
- 中川 博夫 徳島大学総合科学部助教
- 吉山 裕樹 比治山女子短期大学助教
- 余田 充 四国大学短期大学部教授

(九州)

- 赤塚 陸男 筑紫女学園短期大学助教
- 池宮 正治 琉球大学文学部教授
- 今井 明 福岡女子大学文学部助教
- 園田 豊 北九州大学文学部助教
- 中本 環 熊本大学教育学部教授
- 西田 耕三 熊本大学教養部教授
- 野中 哲照 鹿児島短期大学講師
- 安永 美恵 筑紫女学園短期大学助教
- 若木 太一 長崎大学教養部教授

平成6年度 秋季学会

- ①事務局 ②学会開催日 ③会場
- 解釈学会 ①〒101千代田区神田神保町2-46 教育出版センター内03-5394-1203 ②8月26日 ③国文学研究資料館
- 歌舞伎学会 ①〒169新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内71-5218 ②11月26・27日 ③柏崎市産業文化会館・柏崎エネルギーホール
- 近代語学会 ①〒101千代田区神田錦町3-11 武蔵野書院気付03-3291-4859 ②未定 ③本郷会館
- 訓点語学会 ①〒192-03八王子市東中野742-1 中央大学文学部国文学研究室内0426-74-3789 ②10月28日 ③山口大学
- 芸能史研究会 ①〒606京都市左京区浄土寺真如町77 紫雲荘6号室075-761-8718 ②12月3日 ③早稲田大学大隈会館
- 計量国語学会 ①〒167杉並区善福寺2 東京女子大学3号館118号室内03-3395-1211内339 ②9月17日 ③日本女子大学
- 国語学会 ①〒113文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国語研究室内03-3812-2111 ②10月29・30日 ③山口大学
- 昭和文学会 ①〒101千代田区猿楽

- 町2-2-5 笠間書院内03-3295-1331 ②10月8・9日 ③梅花女子大学・梅花女子短期大学
- 説話・伝承学会 ①〒602京都市上京区今出川通烏丸東入 同志社大学国文学研究室内075-251-3421 ②11月19日 ③同志社大学
- 全国大学国語教育学会 ①〒305つくば市天王台1-1-1 筑波大学教育学系人文科教育学研究室内0298-53-6732・6733 ②10月19～21日 ③神戸市立総合教育センター・神戸大附属住吉小・中
- 全国大学国語国文学会 ①〒101千代田区猿楽町2-2-6畑山第1ビル ㈱おうふう気付03-3294-0857 ②10月8～10日 ③岩手大学
- 中古文学会 ①〒156世田谷区桜上水3-25-40 日本大学文理学部国文学研究室内03-3329-1151 ②10月22～24日 ③同志社大学
- 日本演劇学会 ①〒169新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内03-3203-4141内71-5218 ②10月29日 ③嶺南大学
- 日本音声学会 ①〒101千代田区猿楽町1-3-1 03-3292-1718 ②9月24・25日 ③同志社大学
- 日本歌謡学会 ①〒630奈良市高畑町奈良教育大学真鍋研究室内0742-27-9153 ②10月8～10日 ③高岡市万葉歴史館
- 日本近世文学会 ①〒162新宿区戸山1-24-1 早稲田大学谷脇理史研究室内03-3203-4141 ②11月5・6日 ③甲南女子大学
- 日本近代文学会 ①〒113文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国文学研究室内03-3812-2111内3818 事務取扱①〒113文京区本駒込5-16-9学会センタービル日本学会事務センター内03-5814-5810 ②10月22・23日 ③お茶の水女子大学
- 日本国語教育学会 ①〒112文京区大塚3-29-1 日本教育研究連合会第3研究室内03-3941-3420 ②8月6・7日 ③6日筑波大学附小・中 7日国立教育会館
- 社団法人 日本語教育学会 ①〒

- 107港区赤坂1-8-10第9興和ビル内03-3584-4872～3 ②10月8・9日 ③東北大学
- 日本児童文学学会 ①〒263千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学教育学部国語科 佐藤宗子研究室気付043-290-2538 ②11月12～14日 ③大阪国際児童文学館
- 日本社会文学会 ①〒101千代田区三崎町2-3-1 日本大学法学部寒河江・栗栖研究室03-5275-8764 ②12月3・4日 ③大谷大学
- 日本文学協会 ①〒170豊島区南大塚2-17-10 03-3941-2740 ②11月12・13日 ③和光大学
- 日本文学風土学会 ①〒359所沢市泉町1789 秋草学園短期大学国文学部研究室22 0429-25-1111 ②11月19・20日 ③二松学舎大学
- 日本文芸研究会 ①〒980仙台市青葉区川内 東北大学文学部国文学研究室内022-222-1800内2503 ②11月5日 ③東北大学
- 日本文体論学会 ①〒110台東区下谷1-5-34 三修社内03-3842-1711 ②11月12日 ③松山大学
- 日本方言研究会 ①〒192-03八王子市南大沢1-1 東京都立大学国語研究室内 日本方言研究会幹事0426-77-2135 ①〒115北区西ヶ丘3-9-14 国立国語研究所気付日本方言研究会幹事03-3900-3111 ②10月28日 ③山口大学
- 俳文学会 ①〒192-03八王子市大塚359 帝京大学文学部内0426-76-8211 ②10月1～3日 ③上野フレックスホテル
- 萬葉学会 ①〒558大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学文学部国語国文学研究室内06-605-2413・2414 ②10月1～4日 ③京都女子大学
- 紫式部学会 ①〒230横浜市鶴見区鶴見2-1-3 鶴見大学文学部日本文学研究室内045-581-1001内242 ②12月10日 ③学習院大学
- 和漢比較文学会 ①〒657神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学文学部合同研究室内078-803-0481 ②11月19～21日 ③中京大学

国文学研究資料館報 第四十三号
平成六年九月発行
編集・発行者
国文学研究資料館
東京都品川区豊町一六一〇
郵便番号一四二
電話(三七八五)七二三(代)
印刷所 有限会社 スミタ